

三浦一馬 & 村治奏一

SUPER DUO

出演者プロフィール



©Shigeto Imura



©Shigeto Imura

三浦一馬 (バンドネオン)

1990年生まれ。10歳よりバンドネオンを始め、小松亮太に師事。
2006年に別府アルゲリッチ音楽祭にてバンドネオンの世界的権威
ネストル・マルコーニと出会い、自作CDの売上でアルゼンチンに
渡航、現在に至るまで師事。
2007年、井上道義・神奈川フィルハーモニー管弦楽団との共演で、
マルコーニのバンドネオン協奏曲《Tangos Concertantes》を日本
初演。このオーケストラ・デビュー以降、国内の主要オーケストラ
と共演を重ねている。
2008年10月、イタリアで開催された第33回国際ピアソラ・コンク
ールで日本人初、史上最年少で準優勝を果たす。
2011年5月には別府アルゲリッチ音楽祭に出演し、マルタ・アルゲ
リッチやユーリー・バシュメットら世界的名手と共演、大きな話題
と絶賛を呼んだ。
2012年には師のマルコーニと東京・兵庫・名古屋で共演を果たし、
白熱した演奏で聴衆を沸かせた。
2015年出光音楽賞(2014年度)を受賞。
2016年はデビュー10周年を迎え、恩師ネストル・マルコーニとの共
演で再び日本ツアーを開催。7月には大阪フィルハーモニー交響
楽団第500回定期演奏会でルイス・バカロフ作曲の「ミサ・タンゴ」
のソリストに抜擢され好評を博す。
ビクターエンタテインメント(株)より4枚のCDをリリース。
2017年自らが率いる室内オーケストラ「東京グランド・ソロイス
ツ」を結成、同年11月には埼玉県「久喜市くき親善大使」に就任し、
ますます活動の幅を広げる。

村治奏一(ギター)

1997年クラシカル・ギター・コンクール、98年スペイン・ギター音楽
コンクール、第41回東京国際ギターコンクールに続けて優勝。
99年より米国の総合芸術高校ウォールナット・ヒル・スクールに留
学し、ギターをニューイングランド音楽院でデイヴィッド・ライズ
ナー、エリオット・フィスクに師事。2003年同高校音楽科を首席で
卒業し、同時期にビクター・エンタテインメントよりリリースした
『シャコンヌ』がレコード芸術誌の特選盤に選ばれる。
NHK「トップランナー」、テレビ朝日「題名のない音楽会」をはじめ
テレビ・ラジオに多数出演。
10年にはNHK・BS「街道てくてく旅〜熊野古道をゆく〜」のテー
マ曲《コダマスケッチ》を作曲・演奏。
12年秋、「トヨタ・クラシックス・アジアツアー2012」のソリストと
して抜擢され、ウィーン室内管弦楽団と共にアジア5か国でのコ
ンサートツアーを成功させた。13年、S&R財団ワシントン・アワ
ード受賞。
14年、初のコンチェルトアルバム『コラージュ・デ・アランフェス』
(平成26年度文化庁芸術祭参加作品)をキングレコードよりリリース。
16年、自身でプロデュースしたソロアルバム『Off the Record』を
テレビマンユニオンよりリリース。これまでに内外のオーケスト
ラと多数共演。